

企業短期経済観測調査（道北*地域分）
（調査対象企業：道北*48社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
回答社数構成比 %ポイント
（ ）内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2014/12月	2015/3月	6月	9月	12月	2016/3月	2016/6月までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	4	▲4	13	8	6	(4)	2
うち製造業	18	27	27	9	9	(0)	9
非製造業	0	▲14	8	8	5	(5)	0
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲13	▲13	▲9	▲9	▲15	(▲15)	▲17
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	0	▲6	▲3	5	0	(—)	—
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	0	▲5	▲5	2	0	(▲7)	▲9
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲23	▲15	▲13	▲15	▲9	(▲22)	▲30
資金繰り < 楽である - 苦しい >	0	▲2	6	▲10	▲2	(—)	—
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	25	24	25	15	26	(—)	—
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲11	▲11	▲7	▲7	▲7	(▲5)	▲18
販売価格 < 上昇 - 下落 >	11	9	0	2	▲5	(▲6)	4
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	40	40	36	27	26	(38)	24

（注）2014年9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014年12月以降は見直し後の新ベース。

「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「2016/6月までの予測」は調査対象外。

（事業計画）

全産業、前年度比%、
< >内は前回調査比修正率%

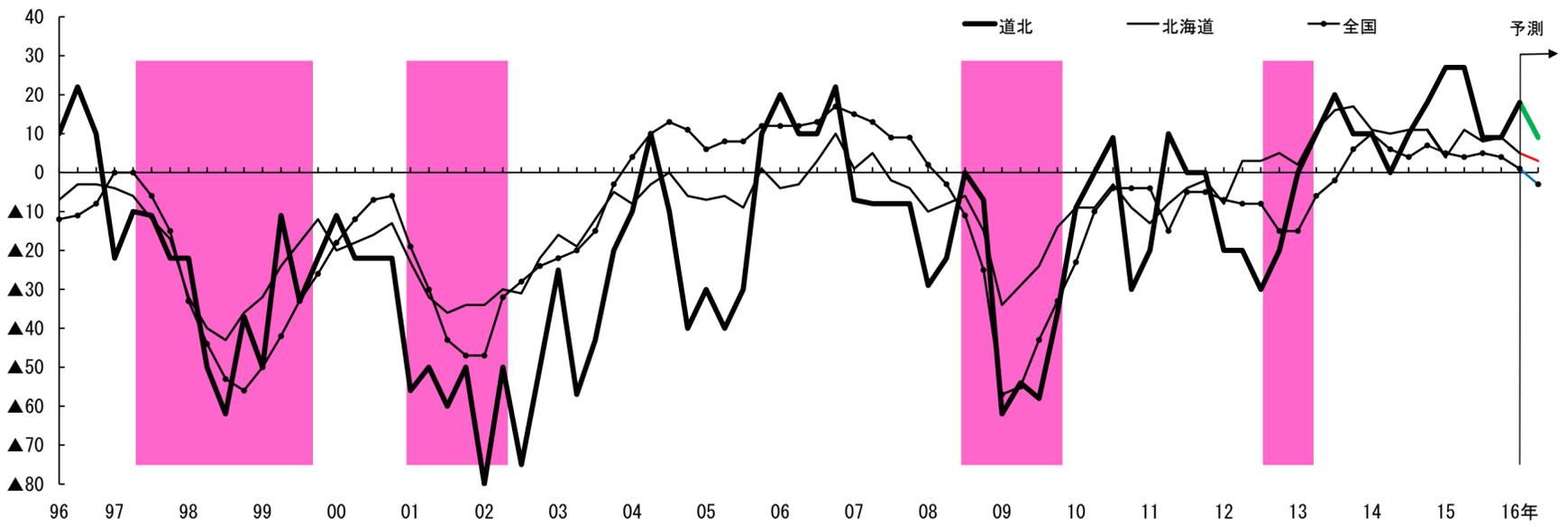
	2014年度実績	2015年度実績見込				2016年度計画		
		上期		下期		上期	下期	
売上高	-4.3	-0.1 < -0.6 >	+3.4 < -0.3 >	-3.2 < -0.9 >	+1.4	+1.9	+1.0	
経常利益	-47.4	+65.0 < +6.5 >	2.1倍 < +25.1 >	+36.7 < -7.4 >	-8.8	-9.3	-8.3	
当期純利益	-57.0	2.7倍 < +48.7 >	2.4倍 < +63.3 >	3.1倍 < +37.2 >	-4.6	-0.3	-8.6	
設備投資額	+97.6	-67.1 < +1.7 >	-57.3 < +2.7 >	-71.6 < +1.0 >	-50.6	-28.0	-65.9	

2016年3月短観・調査結果

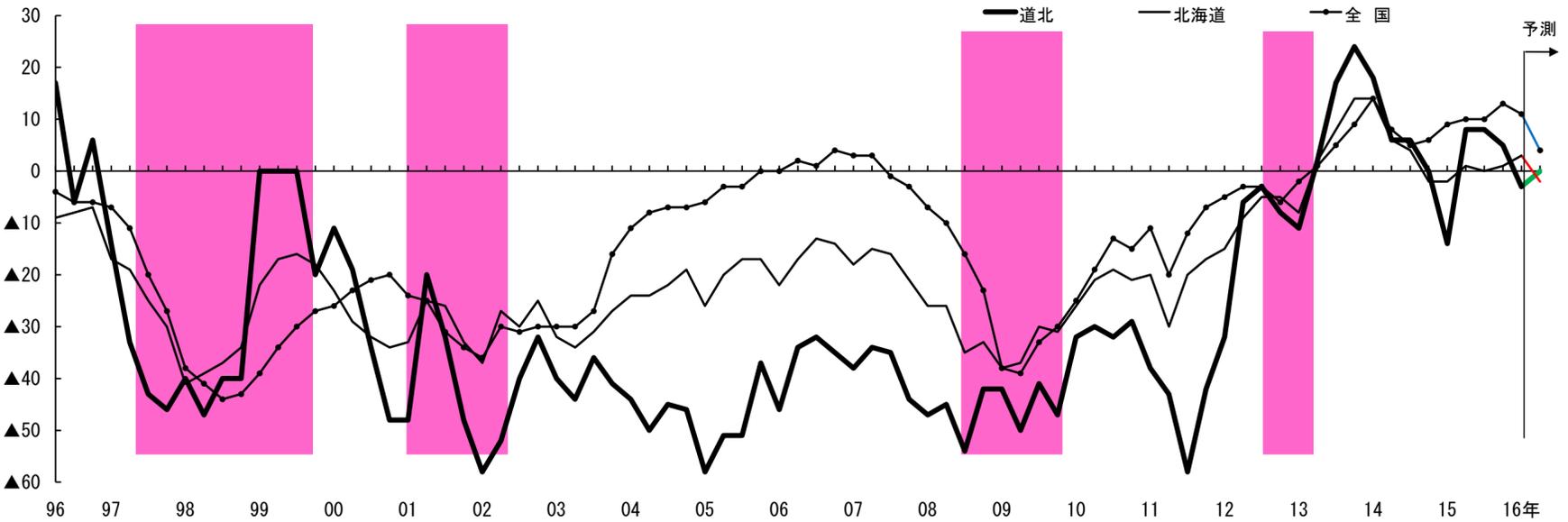
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)

道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
 2014/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014/12月以降は見直し後の新ベース。
 シャドローは景気後退期（内閣府調べ）

道北地域の企業短期経済観測調査結果（2016年3月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 48 社（製造業 11 社、非製造業 37 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 48 社）
- 回答期間：2016年2月25日～3月31日

1. 業況判断 DI

- 3月の業況判断 DI（全産業ベース）は+2 と、前回 12 月調査に比べて若干悪化した（前回+6、前回比▲4 ポイント）。
 - 製造業の業況判断 DI は+18。建設資材関係を中心に前回調査比改善した（前回+9、前回比+9 ポイント）。
 - 非製造業の業況判断 DI は▲3。小売やサービス業を中心に前回調査比悪化し、1年振りにマイナス転化（前回+5、前回比▲8 ポイント）。
- 先行きの業況判断 DI（全産業ベース・2016年6月までの予測）は、横這いを予測。
 - 製造業の業況判断 DI は、建設資材関連を中心に悪化する見込み（+18⇒+9）。
 - 非製造業の業況判断 DI は、悪化を見込む業種もあるものの、小売やサービス業などが改善を見込んでいることから、若干改善して±0に戻す見込み（▲3⇒±0）。

2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI〈需要超－供給超〉」（▲15⇒▲7）は、前回比供給超幅が縮小。先行きは再び供給超幅が拡大する予測（⇒▲17）。「製商品在庫水準判断 DI〈過大－不足〉」（±0⇒±0）は、前回比不変。「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰－不足〉」（±0⇒▲2）は、不足超幅が小幅拡大。先行きも不足超幅が拡大する予測（⇒▲9）。
- 「雇用人員判断 DI〈過剰－不足〉」（▲9⇒▲28）は、前回比不足超幅が大幅に拡大。不足超の業種も広範にわたっている。先行きも、こうした不足超が続く見通し（⇒▲30）。

- 「仕入価格判断 DI<上昇-下落>」(+26⇒+15)は、建設や運輸などで「下落」と回答した先が増えたことから上昇超幅が縮小。先行きに関しては、上昇超幅が再び拡大する見込み(⇒+24)。「販売価格判断 DI<上昇-下落>」(▲5⇒+9)は、建設資材関連、小売やサービス業などが牽引して上昇超に転化。先行きについては、上昇超幅が若干縮小する見込み(⇒+4)。
- この間、企業を取り巻く金融環境についてみると、借入金利水準が一段と低下する中で、金融機関の貸出態度も引続き緩い状況が続いている(「借入金利水準判断 DI<上昇-低下>」: ▲7⇒▲22、「金融機関の貸出態度判断 DI<緩い-厳しい>」: +26⇒+22)。こうした中で、資金繰りに関しては、落ち着いた動きとなっている(「資金繰り判断 DI<楽である-苦しい>」: ▲2⇒▲2)。

3. 事業計画

- 2015年度の事業計画は、売上高に関しては、前回調査比で若干下方修正となり、前年度比▲0.1%とほぼ横ばいの実績見込みとなった。経常利益に関しては、建設関連や運輸、サービス業を中心に、全体で前年度比+65.0%、当期純利益では同2.7倍の増益を見込んでいる。また、これらは前回12月調査比でも上方修正となっている(前回:経常利益前年度比+37.1%、当期純利益同+55.5%)。一方、設備投資額に関しては、前年度にみられた大口の工場・施設等の新增設が今年度は少ないことから、前年度比では▲67.1%と大幅に減少する見込み。
- 2016年度は、売上高に関しては、前年度比+1.4%と小幅増加の計画ながら、経常利益では、同▲8.8%、当期純利益では、同▲4.6%と減益の計画。また、設備投資も、現時点では▲50.6%と半減の計画。

以 上